



## 2026年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2026年2月13日

上場会社名 東映株式会社 上場取引所 東  
 コード番号 9605 U R L <https://www.toei.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 吉村 文雄  
 問合せ先責任者 (役職名) 上席執行役員経理部長 (氏名) 山内 敬 (TEL) 03(6852)0658  
 配当支払開始予定日 —  
 決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2026年3月期第3四半期の連結業績 (2025年4月1日～2025年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
2026年3月期第3四半期	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	136,347	4.6	27,777	9.6	34,594	17.1	17,272	52.9

(注) 包括利益2026年3月期第3四半期 29,439百万円 ( $\Delta 1.6\%$ ) 2025年3月期第3四半期 29,930百万円 (18.5%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2026年3月期第3四半期	円 銭 277.47	円 銭 —
2025年3月期第3四半期	182.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2026年3月期第3四半期	百万円 480,942	百万円 376,251	% 59.4
2025年3月期	463,639	354,323	57.1

(参考) 自己資本 2026年3月期第3四半期 285,791百万円 2025年3月期 264,641百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2025年3月期	円 銭 —	円 銭 6.00	円 銭 —	円 銭 12.00	円 銭 18.00
2026年3月期	—	6.00	—	—	—
2026年3月期(予想)				6.00	12.00

(注) 1 直近に公表されている配当予想からの修正の有無: 無

2 2025年3月期 期末配当12円00銭には、特別配当6円00銭が含まれております。

### 3. 2026年3月期の連結業績予想 (2025年4月1日～2026年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
通期	百万円 177,400	% $\Delta 1.4$	百万円 31,200	% $\Delta 11.3$	百万円 36,400	% $\Delta 9.0$	百万円 20,500	% 30.4

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無: 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：無

新規 一社 (社名)、除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- |                      |     |
|----------------------|-----|
| ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| ② ①以外の会計方針の変更        | : 無 |
| ③ 会計上の見積りの変更         | : 無 |
| ④ 修正再表示              | : 無 |

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2026年3月期3Q	73,844,545株	2025年3月期	73,844,545株
② 期末自己株式数	2026年3月期3Q	11,357,518株	2025年3月期	11,933,117株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2026年3月期3Q	62,250,270株	2025年3月期3Q	61,910,456株

(注) 当社は、役員報酬BIP信託を導入しており、当該信託が保有する当社株式を期末自己株式数及び期中平均株式数の算定上控除する自己株式に含めております。

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 経営成績等の概況（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 経営成績等の概況 .....	2
(1) 当四半期の経営成績の概況 .....	2
(2) 当四半期の財政状態の概況 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(セグメント情報等の注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	9
(継続企業の前提に関する注記) .....	9
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記) .....	9

## 1. 経営成績等の概況

### (1) 当四半期の経営成績の概況

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、雇用・所得環境の改善を背景に個人消費の持ち直しが見られたものの、継続的な物価上昇や金融資本市場の変動により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

このような状況下で当社グループは、映像関連事業を中心により一層のコンテンツ事業の強化及び効率的な活用を図り、堅実な営業施策に努めました。

その結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,363億4千7百万円（前年同四半期比4.6%増）、経常利益は345億9千4百万円（前年同四半期比17.1%増）となり、親会社株主に帰属する四半期純利益は172億7千2百万円（前年同四半期比52.9%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

#### ① 映像関連事業

映画事業では、提携製作作品等32本を配給しました。このうち、『映画キミとアイドルプリキュア♪ お待たせ！キミに届けるキラッキライブ！』がヒットし、『花まんま』、『でっちあげ～殺人教師と呼ばれた男』、『映画「仮面ライダーガヴ お菓子の家の侵略者」』、『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー 復活のテガソード』、『宝島』が好稼働いたしました。また、『ゾンビランドサガ ゆめぎんがパラダイス』、『ペリリュー～楽園のゲルニカ～』、『楓』が堅調に稼働いたしました。また、前連結会計年度における公開作品のうち『35年目のラブレター』が引き続き好調に推移したものの、『帰ってきたあぶない刑事』がヒットした前年同期に比して反動減となりました。

ドラマ事業では、『仮面ライダーガヴ』、『仮面ライダーゼット』、『ナンバーワン戦隊ゴジュウジャー』、『天久鷹央の推理カルテ』、『大追跡～警視庁S S B C 強行犯係～』等を製作して作品内容の充実と高視聴率の獲得、受注本数の確保に努めました。また、特撮キャラクターの国内商品化権営業は、玩具等に関する消費者の嗜好が多様化するなか、旧作の周年記念施策、ゲームアプリ等への版権許諾が堅調に推移しました。

コンテンツ事業では、新作旧作を含む劇場用映画・テレビ映画等の地上波・B S・C S放映権販売、配信事業者向けの配信権販売及びビデオ化権等の販売を行い、『室町無頼』、『35年目のラブレター』、『花まんま』、『でっちあげ』、『あぶない刑事』シリーズ、『ドラゴンボール』シリーズ、『ワンピース』等の配信権販売が堅調に推移しました。海外においては、新作旧作を含む劇場用映画・テレビ映画並びに催事等の海外販売を行い、『十一人の賊軍』、『室町無頼』、『【推しの子】』、『バトル・ロワイアル』、『犬鳴村』、『仮面ライダー展』等が堅調に稼働いたしました。また、海外における商品化権営業及びゲーム等への版権許諾は、アジア及び北南米・欧州の一部にてサイマル配信を開始した『仮面ライダーゼット』をはじめ、『仮面ライダーガヴ』、『ワンピース』、『パワーレンジャー』シリーズ、『ドラゴンボール』シリーズ、『デジモン』シリーズが好調に稼働しました。

その他、撮影所事業では、劇場用映画・テレビ映画等の受注製作、部分請負等を行いました。

以上により、当セグメントの売上高は925億5千9百万円（前年同四半期比4.2%減）、営業利益は242億6千2百万円（前年同四半期比1.4%増）となりました。

#### ② 興行関連事業

映画興行業では、2025年7月27日に当社最後の直営館である「丸の内T O E I」（2スクリーン）が閉館しましたが、連結子会社・㈱ティ・ジョイ（2025年7月 簡易株式交換により完全子会社化）によるシネマコンプレックス（23サイト230スクリーン。共同経営・共同運営含む）の運営が事業の中心となっており、『名探偵コナン 隻眼の残像』、『ミッション：インポッシブル/ファイナル・レコニング』、『国宝』、『マイクロクラフト/ザ・ムービー』、『劇場版「鬼滅の刃」無限城編 第一章 猿窓座再来』、『チェンソーマン レゼ編』、『ズートピア2』等の大ヒットが業績を牽引し、好調に推移しました。また、前連結会計年度にオープンしたT・ジョイ エミテラス所沢が引き続き好調に稼働し、前年同期に比して増収増益となりました。

以上により、当セグメントの売上高は199億4千9百万円（前年同四半期比40.9%増）、営業利益は23億5千8百万円（前年同四半期比194.7%増）となりました。

#### ③ 催事関連事業

催事事業では、『ブルックリン博物館所蔵 特別展 古代エジプト』、『シルバニアファミリー展 40th』、『超クウガ展』、『爆上戦隊ブンブンジャーファイナルライブツアー2025』、『全スーパー戦隊展』、『ヒーローライブスペシャル2025』、『仮面ライダーガヴ ファイナルステージ』、『キミとアイドルプリキュア♪』関連催事や人気キャラクターショー等の各種催事が好調に稼働し、催事関連商品の製作・販売並びに仮面ライダーストアでの販売が好調に推移いたしました。東映太秦映画村においては、リニューアル工事による営業エリアの一部制限が動員数に影響し売上高が伸び悩むなか、『怪々YOKAI祭』等の施策を展開し、収益の確保に努めまし

た。

以上により、当セグメントの売上高は98億7百万円（前年同四半期比11.3%増）、営業利益は14億3千2百万円（前年同四半期11.2%増）となりました。

#### ④ 観光不動産事業

不動産賃貸業では、全国に所有する「東映プラザ（渋谷・福岡・広島・仙台）」「新宿三丁目イーストビル」等の複合商業施設、マンション等の各物件の原価見直しや各テナントの賃料の見直しを行い、賃貸運営が好調に推移いたしました。ホテル業においては、インバウンド需要等の回復により稼働率が向上した一方、引き続き国内団体利用の減少及び光熱費等の物価高の影響を受けております。このような状況のなか、価格改定やコスト管理の徹底に努めるなど収益の確保に努めました。

以上により、当セグメントの売上高は49億7百万円（前年同四半期比1.1%減）、営業利益は20億3千2百万円（前年同四半期比12.3%増）となりました。

#### ⑤ 建築内装事業

建築内装事業では、建設資材費等の高止まりや労務費の上昇等による影響があり、厳しい経営環境が続きましたが、従来の顧客の確保及び受注拡大を目指して積極的な営業活動を行いました。このような状況のなか、商業施設及びシネコン関係、マンション、障がい者施設、老健施設等の大型工事の受注数が増加したことに加え、受注案件の精査、業務の効率化を実施し、前年同期に比して增收増益となりました。

以上により、当セグメントの売上高は91億2千3百万円（前年同四半期比56.8%増）、営業利益は9億9千1百万円（前年同四半期比207.8%増）となりました。

### (2) 当四半期の財政状態の概況

#### (資産)

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は、4,809億4千2百万円となり、前連結会計年度末に比べ173億3百万円増加しました。これは主に、現金及び預金が84億5千8百万円、仕掛品が56億5千万円、建物及び構築物が26億2千万円、投資有価証券が47億3千6百万円増加し、受取手形、売掛金及び契約資産が36億5千8百万円、投資その他の資産のその他が27億7千9百万円減少したことによるものであります。

#### (負債)

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は、1,046億9千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ46億2千4百万円減少しました。これは主に、短期借入金が14億8千2百万円、流動負債のその他が16億4百万円増加し、支払手形及び買掛金が47億4千6百万円、1年内返済予定の長期借入金が17億4千5百万円減少したことによるものであります。

#### (純資産)

当第3四半期連結会計期間末における純資産合計は、3,762億5千1百万円となり、前連結会計年度末に比べ219億2千8百万円増加しました。これは主に、資本剰余金が28億6千2百万円、利益剰余金が161億8百万円、土地再評価差額金が10億8千8百万円増加したことによるものであります。

### (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2026年3月期の業績予想につきましては、現時点においては、2025年11月14日発表の業績予想に変更はありません。なお、実際の業績は、当社グループの事業を取り巻く経済環境、市場動向等様々な要因により、記述されている業績見通しとは大きく異なる結果となり得ることをご承知ください。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	105,448	113,906
受取手形、売掛金及び契約資産	43,887	40,229
商品及び製品	3,464	2,855
仕掛品	11,711	17,361
原材料及び貯蔵品	647	849
その他	5,869	6,550
貸倒引当金	△177	△178
流動資産合計	170,851	181,576
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	36,868	39,488
土地	53,594	53,601
その他（純額）	7,557	9,182
有形固定資産合計	98,020	102,273
無形固定資産	2,049	2,418
投資その他の資産		
投資有価証券	150,364	155,101
その他	42,467	39,688
貸倒引当金	△114	△114
投資その他の資産合計	192,717	194,675
固定資産合計	292,787	299,366
資産合計	463,639	480,942
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	33,362	28,615
短期借入金	200	1,682
1年内返済予定の長期借入金	7,282	5,537
未払法人税等	5,903	5,212
賞与引当金	1,640	838
その他	13,477	15,082
流動負債合計	61,866	56,968
固定負債		
長期借入金	9,928	10,648
役員退職慰労引当金	241	176
役員株式給付引当金	489	586
退職給付に係る負債	4,298	4,312
その他	32,491	31,999
固定負債合計	47,449	47,722
負債合計	109,315	104,691

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2025年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2025年12月31日)
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	11,707	11,707
資本剰余金	22,878	25,740
利益剰余金	183,047	199,156
自己株式	△11,583	△11,241
<b>株主資本合計</b>	<b>206,050</b>	<b>225,362</b>
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	41,439	42,309
繰延ヘッジ損益	△7	△6
土地再評価差額金	11,216	12,304
為替換算調整勘定	3,020	3,018
退職給付に係る調整累計額	2,922	2,803
その他他の包括利益累計額合計	58,590	60,428
<b>非支配株主持分</b>	<b>89,682</b>	<b>90,460</b>
<b>純資産合計</b>	<b>354,323</b>	<b>376,251</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>463,639</b>	<b>480,942</b>

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

(四半期連結損益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
売上高	130,410	136,347
売上原価	75,990	76,548
売上総利益	54,420	59,799
販売費及び一般管理費	29,067	32,021
営業利益	25,352	27,777
営業外収益		
受取配当金	957	1,215
持分法による投資利益	2,709	4,344
その他	1,062	1,474
営業外収益合計	4,728	7,035
営業外費用		
支払利息	92	155
為替差損	186	—
支払補償費	194	—
その他	63	62
営業外費用合計	537	218
経常利益	29,543	34,594
特別利益		
固定資産売却益	—	3,608
その他	152	445
特別利益合計	152	4,053
特別損失		
減損損失	113	95
解体撤去費用	252	71
固定資産除却損	34	49
投資有価証券評価損	257	—
その他	33	—
特別損失合計	691	216
税金等調整前四半期純利益	29,004	38,431
法人税、住民税及び事業税	7,769	10,888
法人税等調整額	328	206
法人税等合計	8,097	11,095
四半期純利益	20,907	27,336
非支配株主に帰属する四半期純利益	9,608	10,063
親会社株主に帰属する四半期純利益	11,298	17,272

## (四半期連結包括利益計算書)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
四半期純利益	20,907	27,336
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	5,990	768
繰延ヘッジ損益	△1	2
土地再評価差額金	—	1,088
為替換算調整勘定	1,262	22
退職給付に係る調整額	△106	△130
持分法適用会社に対する持分相当額	1,877	350
その他の包括利益合計	9,023	2,102
四半期包括利益	29,930	29,439
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	19,129	19,109
非支配株主に係る四半期包括利益	10,800	10,329

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

## I 前第3四半期連結累計期間（自 2024年4月1日 至 2024年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	興行関連事業	催事関連事業	観光不動産事業	建築内装事業	計	調整額(注) 1	四半期連結損益計算書計上額(注) 2
売上高								
外部顧客への売上高	96,658	14,161	8,808	4,962	5,819	130,410	—	130,410
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,846	161	417	589	836	3,851	△3,851	—
計	98,504	14,323	9,226	5,551	6,655	134,262	△3,851	130,410
セグメント利益	23,936	800	1,288	1,808	322	28,156	△2,804	25,352

(注) 1 セグメント利益の調整額△2,804百万円には、セグメント間取引消去△192百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△2,612百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第3四半期連結累計期間（自 2025年4月1日 至 2025年12月31日）

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	映像関連事業	興行関連事業	催事関連事業	観光不動産事業	建築内装事業	計	調整額(注) 1	四半期連結損益計算書計上額(注) 2
売上高								
外部顧客への売上高	92,559	19,949	9,807	4,907	9,123	136,347	—	136,347
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,839	189	370	828	229	3,458	△3,458	—
計	94,399	20,139	10,177	5,735	9,352	139,805	△3,458	136,347
セグメント利益	24,262	2,358	1,432	2,032	991	31,077	△3,299	27,777

(注) 1 セグメント利益の調整額△3,299百万円には、セグメント間取引消去△188百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△3,110百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント利益は四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2025年4月1日 至 2025年12月31日)
減価償却費	3,176百万円	3,174百万円